

サービス・ラーニングを活用した造形ワークショップの試み

愛知東邦大学 准教授 新實 広記



1 「学校園での体験から学ぼう！」

将来、保育者や小学校教諭を目指している学生の中には、美術に苦手意識を持っていたり、実習での不安を抱えていたりする学生が多くいます。不安を持つことは当然のことであって、ある意味大切なことだと思います。ただ、そのような学生の話をよく聞いてみると、具体的な不安を持っているというよりも、漠然とした保育・教育現場への不安を抱えているケースが多いことに気づきます。そこで、考えたのが「学校園での体験から学ぼう！」を合言葉にした、サービス・ラーニングを活用した1年生のプレ実習です。

2 サービス・ラーニングとは？

サービス・ラーニングとは、まだあまり一般的には知られていない言葉ですが、ボランティアとは少し異なります。「サービス・ラーニング」(Service Learning)とは1990年代後半のアメリカで生まれた新しい言葉で、「地域諸機関での奉仕活動を通じた経験学習」を意味します。青少年が自立した大人になることを目的として、地域社会への参画による経験から「市民性」を育成する実践的方法です。それまでにも重視されていたボランティア活動を取り込みながら、教育方法として洗練させていったものが、「サービス・ラーニング」になります。今では、全米の中等・高等教育で盛んにおこなわれています。このような、サービス・ラーニングを活用して、学生の漠然とした不安を学校園での体験から学ぶことで、具体的な課題へと変えていくことがねらいです。

3 様々なサービス・ラーニング

実際にサービス・ラーニングを行う際は、教員が事前に園や学校に実習経験のない1年生が参加することや、サービス・ラーニングの趣旨を説明させていただきます。実際には、以下のようなサービス・ラーニングを実施しています。

- 運動会のお手伝い
- 作品展の準備
- 授業参観の参加
- 遠足の引率
- 季節のお祭りのお手伝い
- 児童館の支援
- 子育て支援センターの託児補助
- 造形ワークショップの実施など

4 サービス・ラーニングを活用した造形ワークショップ



美術に苦手意識のある学生の多くが、子供が造形表現をする姿を想像するのではなく、自分が子供たちの前で造形をして失敗している姿を想像しているようです。そのような学生には、まず子供

の表現する姿を園に観察に行くことが効果的です。

さらに、観察するだけでなく、実際に造形ワークショップを企画することも効果的です。苦手意識のある学生が、いきなり一人での授業は刺激が強すぎますが、チームで行う造形ワークショップであれば、仲間と協力して力を発揮できると思います。

サービス・ラーニングを活用した造形ワークショップを行う際は、まず教員が1年生のプレ教育自習の位置付けを現場の先生方に説明し、協力をお願いします。次に、学生のみで園に訪問して造形ワークショップの内容を説明し、その後、園や学校から指摘くださった箇所を大学で改善して、当日の実践に望みます。



実践では、事前に先生方にサービス・ラーニングの趣旨を説明してありますので、よほどのことがない限りは、優しく見守っていただいています。終了後には、現場の先生方から様々な子供を見る視点、子供の発達、題材、用具、環境の設定などのアドバイスをいただき、時にはお褒めの言葉もいただきます。

学生の感想からは、1年生の時点で実際に現場に行って子供たちに実践することで、座学での勉強もリアルに想像ができるようになった。他には、教師、保育者の子供に対する声かけや観察する力の大切さを、体験を通して理解することができた。子どもたちの行事を安全に行うためには、事前の入念な準備と計画が必要であることを準備する側の視点に立つことで体験ができた。などがよく聞かれます。

さらに、美術に自信のあった学生も、現場にいき実施することで、子供の想像しない動きに指導案通りに活動が進まず失敗することが養成段階の早い時期に体験できたことは良かったようです。

5. サービス・ラーニングを活用した造形ワークショップの課題

このサービス・ラーニングを活用した造形ワークショップは、受け入れる園・学校側にこの活動にご理解いただき一時的なイベントではなく継続的に保育者・教員を養成していきうと現場の先生がたにも教育活動として位置づけていただく必要があります。

そのためには、大学周辺の地域の方々にサービス・ラーニングの試みをご理解いただき連携していただける園や学校を大学周辺の地域に増やし教育環境を整えていくことが課題です。

学生が将来教育者になり、質の高い保育・教育活動を現場で行うためには、養成段階で不安を克服し、実践力を自ら育てていくことができる力を育成することが重要です。そのためには、サービス・ラーニングを活用した教育を取り入れ、現場教員の声掛けの方法や子どもに対する観察力、教員同士のチームワークの重要性を、体験を通して理解し学ぶことがより効果的であると、参加した学生の声から実感しています。

私自身も現場の先生方から学ぶことが非常に多い、サービス・ラーニングとなっています。これまでにご協力いただきました皆様に感謝いたします。